中学校第２学年　学級活動学習指導案

Cモデル

１　題材名　がんの治療で大切なこと　（外部講師：がん経験者、医療関係者）

２　本時のねらい

　　自分や身近な人が「がん」になった場合を想定した意見交換を通して、保健学習（がんの疾病概念や予防、早期発見の大切さ等）をもとに、自分にできることを考えることができる。

（思考・判断・表現）

３　本時の展開

|  |  |  |
| --- | --- | --- |
| 過程 | 学習内容　「・」予想される生徒の思考 | ◇教師の指導　※留意事項 |
| 導入 | １　課題づくり・講師紹介〇自分や身近な人が「がん」と知らされたとき、どのようなことを思うのか考える。（グループでの交流）・早期発見なら９５％以上が治ると言われているけれど、自分は治るのだろうかと不安になる。・今の生活が続けられなくなると思うから、とても不安。○「緩和ケア」について理解する。・不安や心のつらさを和らげるための医療が「緩和ケア」なのか。これからのために、詳しく知りたいな。

|  |
| --- |
| 自分や身近な人が「がん」になったとき、自分や身近な人のためにできることを考えよう。 |

 | ◇既習の内容を簡潔に振り返ったうえで「もし自分や身近な人が『がん』と診断されたら？」と問うことで、自分事として想像し、主体的に考えることができるようにする。※外部講師を紹介し、緩和ケアについて説明するとともに、漠然とした不安や想像した心のつらさについて一緒に考えてもらえることを伝えることで、学習への意欲を高める。 |
| 展開 | ２　家族や身近な人が「がん」と知ったとき、どのよう思い、接するか、理由を含めて考える。　〔グループ交流〕→〔全体交流〕→〔講師の助言〕

|  |
| --- |
| ケース①がんの経過初期における緩和ケア |

・体の痛みやつらさ、心のつらさ、社会的なつらさがあるんだな。私は、心のつらさの支えになりたいな。・自分ができることを増やして、負担を減らして、治療に専念できるように支えたいな。

|  |
| --- |
| ケース②がんの経過後期における緩和ケア |

　・それぞれの分野の専門家が、チームで患者とその家族を支援する仕組みがあるんだな。　・「自分らしく生き抜く」とは、どういうことなのかな。　・治療中も、自分らしい生活ができるように支えたい。３　外部講師の話を聞く。・治療を理解し、自分で選択することが大切なんだな。・つらい思いをしたくないしさせたくない。だから、がん検診の大切さを家で話そう。 | ※身近な人を「がん」で亡くしたり、現在、家族が闘病中の生徒がいる場合、本人及び保護者に事前説明をするとともに、授業中は本人の様子を観察するなど配慮する。◇２つのケース（「がんの経過状況」、「自分との関係」、「家族構成等の状況」）を例示し、自分との関係を想定して考えることによって、自分事として主体的に考えることができるようにする。※共感的な理解が深まるように、外部講師の協力を得て、同世代の事例や、生徒と同世代の子どもをもつ親世代のケースを取り上げる。◇「支えたい」「話を聞いてあげたい」等の具体的な行動を話している生徒に対して、その理由を問いかけることによって、内面にある思いに向き合うことができるようにする。 |
| まとめ | ４　振り返り（学びをつなげる）〇本時を振り返り、自分や身近な人ががんと診断された場合に、自分にできそうなことをまとめる。☞相手の思いに寄り添い、自分にできることをやっていきたい。そのためにも、日頃から自分の思いを伝え合う関係を築いていきたい。☞私の家族は、がん検診を受けているのかな。今日考えたことを話して、もし検診を受けていなかったら、家族のためにも検診を受けるように説得しよう。 | ◇学習したことを家庭で話し、感想をもらうようにすることで、健康の大切さについてより深く考えることができるようにする。

|  |
| --- |
| 【評価規準】思考・判断・表現がんと診断された場合に自分にできそうなことや、自分や家族の健康のために大切にしたいことを、ワークシートに記述している。 |

 |